

第2章 語の書き表し方

その1 仮名遣い

1 基本的な仮名遣い

1. p20 4. 注意すべき仮名遣い (2) [参考]

「鉄製」「鉄柵」は「テツセイ」「テツサク」でよいでしょうか。

「鉄製」はフォーラムの語例に「テツセイ」とありますし「テツセイ」でよいと思うのですが（鉄製を「テツセイ」と読むということではないと理解していますが）、辞書には「テッセイ」という見出し語で載っていて（テツセイとも）と説明の中に書かれています（広辞苑）。（・・・とも）というのは点字では使わないようにといわれたことがあります。促音に関しては使っても良いのでしょうか。

「鉄柵」は私の持っている辞書では「テツサク」としか出ていないのですが、ネットの「ふりがな文庫」には「てつさく」という読み方が載っています。辞書ではありませんが「ふりがな文庫」の読み方を採用してもよいでしょうか。

また他の言葉についてですが、促音化しない読み方が、空見出しとして載っている場合はどうすればよいでしょうか。「空見出し」は間違った読み方をしている人のために載せている場合もあると伺いましたので。

【A】

「てびき」p20 [参考] に、「促音」については《一般的な辞書の読み方とは異なりますので、注意しましょう》と書いてありますように、点訳における一般的な辞書の読み方は「てびき」p14にあるように、「空見出し」ではなく、語義が記してある方の読みを採用しますが、促音化するかどうかは、できるだけ促音化しない方を選択します。ですから、促音化に関しては、空見出しでも、（～とも）でも、辞書に記載があればそちらを選びます。

鉄製も、いくつかの辞書を調べてみますと以下のようになっています。

三省堂国語辞典「てつせい」の見出しのみ

大辞林「てっせい」の見出しに（「てつせい」とも）

広辞苑「てっせい」の見出しに（「てつせい」とも）

大辞泉「てっせい」の見出しの字義説明の最後に、「てつせい」

新潮国語辞典「てっせい」の見出しに（「てつせい」とも）

岩波国語辞典、新明解には、見出しなし。

日本国語大辞典では「てっせい」のみ

これらのことから、点訳では「テツセイ」と書いた方がよいことになります。

「鉄柵」「鉄柱」「鉄板」「鉄管」「鉄器」「鉄拳」などは、「鉄」に造語要素である「製」が付いた「鉄製」より、一語としての結びつきが強いので、どの辞書でも促音化して書かれています。このような場合は、「テッサク」「テツチュー」「テッパン」「テッカン」「テッキ」「テッケン」と促音を用います。

「ふりがな文庫」は、そのホームページに「青空文庫などで公開されている作品に含まれる「ふりがな」の情報を元に作成しています。語句に振られたふりがなの使用頻度や用例を簡単に検索できます。当サイトで掲載している情報には、現在では使用が不適切とされる語句が含まれますが、資料としての価値に鑑み原文のまま掲載しています。ご了承ください。」と書かれていますので、国語辞典のように読みの根拠とすることはできないと思います。どこにも根拠が無かった場合に、判断の参考にはなるかもしれません。

2. p23 4. 注意すべき仮名遣い (5) 【処理】

「てびき」に「もーう」を「モー」と書くがありますが、「もーう」のように長音符が一つであれば「モーウ」としてもよいですか。最近の本は若者言葉など様々な会話文が出てくるのでそのニュアンスを表現するには、ただ「モー」と書くのでは足りない気がします。

歌うシーンにも「ほーうてーいしき」や「さんかくじょうぎー」などと長音符を「う」と続けているところが多くあるのですが、原文どおり「ホーウテーイシキ」「数3カク■ジョーウギー」と書いてもよいでしょうか。

【A】

基本的な仮名遣いに従って書くことが原則ですが、擬声語・擬態語・嘆声や方言などは、文脈を考慮して、発音に近い点字を用いて書くという処理もありますので、原則を考慮しながらの判断はできると思います。

ただ、「もーう」は、「モー」ではないかと思います。「もうお」「もーお」という言い方はあると思いますが、「モーウ」は不自然のように思います。

歌うシーンの方は、カギで囲まれた中で、「ほーうてーいしき」「さんかくじょうぎー」と音符の数通りに歌っていることに意味があるのであれば「ホーウテーイシキ」「数3カク■ジョーウギー」と書くこともあるかもしれません。しかし、一般的には「ホーテーイシキ」「数3カク■ジョーギー」で伸ばして発音していることは十分に分かると思います。

3. p23 4. 注意すべき仮名遣い (7)

松本清張の『風紋』という本にでてくる「むつかしい」という言葉についてです。

現代ものでは方言以外は「むずかしい」と読んだ方が良いということですが、「むづかしい」と原本通り点訳したほうが、その時代や本全体の雰囲気にあっているように感じます。「むずかしい」と点訳しないといけないのでしょうか。

文化庁の「国語施策・日本語教育」語形の「ゆれ」の問題について（ネット）では、《「むずかしい・むづかしい」の揺れは関東・関西の対立によるものと考えられ、「むづかしい」も認めないわけにはいかないであろう。》とあります。

本の中には「むづかしい」と「むずかしい」が混在しています。特に使い分けがされているようにも思えません。このような場合はどうすればよいのでしょうか。

【A】

「難しい」と漢字で書いてあれば、「むずかしい」と読みますが、仮名で「むづかしい」と書いてあれば、「むづかしい」と読むことになります。現在でも、「むづかしい」は、西日本中心に用いられている方言の一種ととらえてよいと思います。「てびき」p23(7)の「じずじゃじゅじょ」や「お・ほ・ふ・う」などの仮名遣いの間違いでもないですので、仮名で書いてあれば、その通りに点訳してよいと思います。ただ、「むづかしい」は「むずかしい」と書きます。

4. p23 4. 注意すべき仮名遣い (8)

飛鳥時代の歌人額田王の半生を書いた本「恋ふらむ鳥は」の中に、以下のような紫の にはほへる妹を憎くあらば

人妻ゆゑに 我恋ひめやも

歴史的仮名遣いの和歌が15首程あります。「てびき」での原則は現代文の仮名遣いで書きますが、【備考】の最後に「古文の仮名遣いで点訳できる」とあり、「できる」が、この本が著者の主義として、特別な事情なのかどうか判断に迷っております。現代仮名遣いか、③の歴史的仮名遣いかを、また、特別な事情なのかの判断の方法はどうなりますか。原本は、飛鳥時代を醸し出すように、全体に、文函(ふみひつ)・汗衫(かざみ)・瘡(おこり)・捷報(しょうほう)のように古風な表現が多い本です。

【A】

一般書の場合は、現代文の仮名遣いで書くことをお勧めします。古文の学習書や、現代でも歴史的仮名遣いで書くことの多い短歌の仮名遣いを学ぶための本、プライベートの依頼などは、点訳書凡例で断った上で、歴史的仮名遣いの部分を古文の点訳の仕方(pointing)で点訳することもあります。

しかし、一般書の場合は、古文の仮名遣いで書いたから鑑賞が深まるとか、現代語の仮名遣いでは雰囲気が伝わらないと言うことはないと思います。

墨字の見た目の印象に左右されているように感じます。墨字では主要な言葉に表意文字である漢字が用いられるので、ひらがな書きの部分が使い慣れない仮名遣いで

綴られても意味を受け取るのに不都合は少ないのですが、点字ではすべて表音文字であるために、普段読み慣れない仮名遣いだと読みにくく、慣れないと意味を読み取りにくくなります。

墨字で「にほへる」「恋ひ」などと書かれていても、「におえる」「こい」と読むのですから、読むように書くことをお勧めします。

タイトルも「コウラン■トリワ」となります。

5. p24 4. 注意すべき仮名遣い (9)

「天馬翔雲上 聖雨潤天下」のマスアケがわかりません。

本文中に以下の説明がついています。

「天馬、雲上を翔け、聖雨、天下を潤す」(てんばうんじょうをかけ、しょううてんかをうるおす)

テンバ ショー ウンジョー

ショーウ ジュンテンカ

と考えてみました。

【A】

「てびき」p24 (9)にありますように、漢文の白文は、書き下し文に直して点訳することが原則になります。

この原文の場合、「天馬翔雲上 聖雨潤天下」の説明が付いていますので、「テンバ■ウンジョーヲ■カケ、■ショーウ■テンカヲ■ウルオス」だけを点訳します。

白文を省略すると文脈が乱れるような場合は、(白文省略)などと点訳挿入符で断ります。

6. p24 4. 注意すべき仮名遣い (9)

原本に以下のような部分があります。

良寛の愛唱した言葉として「君看雙眼色 不語似無憂」というのがある。「君看よや 雙眼の色、語らざれば憂い無きに似たり」(ルビで きみみよや そうがんの)と読む。

このような場合は、最初の漢文はどう点訳したらいいのでしょうか。

【A】

原本に漢文がある場合は現代文の仮名遣いによる書き下し文で点訳することになりますので、原本の白文は省略します。

原文の流れから、書き下し文だけを書いて、不自然な流れにならないければ特に断らなくてもよいのですが、白文を省略すると、原文の流れが不自然になる場合は、「白文は省略した」ことを断ります。

ご質問の文の場合は、

良寛の愛唱した言葉として「点挿漢文の白文省略点挿」というのがある。

「キミ■ミヨヤ■ソーガンノ■～」と読む。

と書くか、または、

良寛の愛唱した言葉として「キミ■ミヨヤ■ソーガンノ■～」というのがある。■

■点挿白文は省略し読みだけを書いた。点挿

として、「《君見よや～》と読む。》の文を省略してもよいと思います。

2 その他の仮名遣い

1. p25 1. 外来語・外国語の書き方

芥川龍之介の引用文が出てきます。『侏儒の言葉』に「人生は狂人の主催に成ったオリムピック大会に似たものである。」

『或旧友へ送る手記』に「僕はエムペドクレスの伝を読み」と引用文があり、続いて著者の「エムペドクレスとは古代ギリシャの哲学者・エンペドクレスのことだ。」

「ム」は歴史的仮名遣いと思いますが、外来語と固有名詞なので、原文通りオリムピック、エムペドクレスと点訳していいのでしょうか。

【A】

外来語は、「てびき」p25【処理2】やp29 5.、p30「コラム4」に該当する文字以外は、原文の表記に従って書きますので、この場合も、原文通りオリムピック、エムペドクレスと点訳してよいと思います。

2. p25 1. 外来語・外国語の書き方

本文で、日本人に外国人が「コクサイレンゴウ」と言う場面があります。カタカナで書いてあり外国人の発言でもあるので、あえて長音は使わずに「コクサイ■レンゴウ」とするのは誤りなのでしょうか。

【A】

この前後に「ウ」の発音について取り上げているところがあれば、「コクサイ■レンゴー」と書く方がよいと思います。

たとえば、本文中に「最後を伸ばさないで《ウ》と発音している」のような説明があれば、「レンゴウ」と書いてもよいかもしれませんが、単に外国人の流暢でない話し方を表しているだけでしたら、「レンゴー」と書きます。

3. p25 1. 外来語・外国語の書き方

日系アメリカ人名について、本文中には、ロサンゼルスで探偵業を営んでいるロバート・サトウ、アメリカで生まれ育った日系三世…と書かれています。この場合、

「サトウ」「サトー」どちらの表記になりますか？

【A】

アメリカで生まれ育ったので、「佐藤」という漢字は使われていないと思いますので、
全てアルファベット表記する人名でしたら外国人名と判断して、

ロバート■サトウ

と書いてよいと思います。

4. p26 2. 擬声語・擬態語・嘆声

原本に以下の部分があります。

「なんや。義則も来てたんかあ。」

義則は「おうっ。」と私たちに片手をあげて見せる。

上記の「おうっ」の「う」は長音か、そのまま「う」かで意見が分かれています。

「う」をはっきり発音していると思うので「おーっ。」ではおかしいと思いますが。

【A】

「オーッ」と長音で書いてよいと思います。

「う」をはっきり発音しているとする特別な理由はないように思いますので、才列
の長音と考えた方がよいと思います。

実際の発音が「う」なのか長音なのかについては、主観的な領分になってしまい意見
が分かれるように思います。

墨字でひらがな書きをする嘆声や掛け声・擬声語などは、音を伸ばすところにも通常
長音符を用いず「う」と書くのが一般的で、「すうっと」「がおう」「ぐうぐう」「お
う」などと書かれますが、「てびき」p26 2. にあるように、点字の「基本的仮名
遣い」の考え方からこれらは「う」を長音に対応させて書くことになっています。「う
うっ」のように「う」が連続する場合のみ、「う」音の連続なのか伸ばしているのか
を考慮して判断する、とを考えていただいた方がよいと思います。

5. p28 3. 方言 【処理】

「わたしあ・それあ・昔あ・あの家あ（うちあ）」などや、擬声語「ひあっ！？」と
「なあお」の小さい「あ」が付いている場合はどう点訳したらいいでしょうか

【A】

「てびき」p23 (6)、p28 3. の【処理】を参考にして、発音に近い点字を用いて
書きます。小書きの「あ」を「ぁ」にするのが一般的ですが、「てびき」の「俺ァ」
の例に倣って「シャ」や「リャァ」にしてもよいと思います。

わたしあ ワタシア ワタシャ

それあ ソレア ソリャァ

昔あ ムカシア ムカシャ
あの 家あ（うち） ウチア
「ヒアッ!？」「ヒャアッ!？」
「ナアオ」「ニャアオ」
などが考えられます。

6. p28 4. 固有名詞の仮名遣い (1)

青梅・青海・近江・室生・能生などの点字表記について

青（「あお」が変化して「お」）梅（うめ）、青海（おうみ）、近江（淡いうみから転じたもの）のようで、いずれも「う」はウ列・オ列の長音ではないと考えますが、なぜ長音で表記するのでしょうか。

室生・能生駅（のうえき）も、色々調べたところ「室」を「むろ」、「生」を「う」、「能」を「の」、「生」を「う」と読むようです。Q&Aに、《未曾有は「有」という字を「う」と読んでいますので、長音になりません》とありますので、能生駅は「ノウ」と点訳しました。「室生」も「生」を（う）と読んでいるので長音ではなく「ウ」と点訳するのではないのでしょうか。

【A】

「近江」は、歴史的仮名遣いでは「あふみ」と書き、現代仮名遣いでは「おうみ」、現代語の音韻では「オーミ」となります。

「歴史的仮名遣い」と「現代仮名遣い」と「現代語の音韻」については、「てびき3版指導者ハンドブック2章編」p24「コラム」を参照してください。

この一覧は「現代仮名遣い」の付表にあります。点字で長音かどうかなどに迷ったとき、現代ではどう発音するか（現代語の音韻）で判断することができます。

「青梅」は、「あおうめ」の「あお」が「お」に変化したのではなく、「あおう」の部分が「おう」に転化したものですので、「オー」と長音で書きます。

「青海」を「おうみ」と読む場合も同じで、「あおうみ」の「あおう」が「おう」に転化したので「オーミ」と書きます。

「室生」は「ムロー」、能生駅は「ノーエキ」と書きます。

「生」が付く地名などの語句は、迷うことが多いのですが、「麻生」「稻生」「蒲生」など名字に使用されるようなア列の音は「あさふ」「いなふ」「がまふ」が現代仮名遣いでは「あそう」「いのう」「がもう」となり、現代の音韻では「アソー」「イノー」「ガモー」となります。

「桐生」「埴生」「瓜生」「丹生」などのイ列の音は、「きりふ」「はにふ」「うりふ」「にふ」が現代仮名遣いで「きりゅう」「はにゅう」「うりゅう」「にゅう」となり、現代の音韻では「キリユー」「ハニユー」「ウリユー」「ニユー」と書きます。

「室生」「能生」「御園生」などのオ列の音は「むろふ」「のふ」「みそのふ」が現代

仮名遣いで「むろう」「のう」「みそのう」となり、現代の音韻では「ムロー」「ノー」「ミソノー」となります。

ただ、「葛生」「杉生」「蓬生」など、植物が生えているところを表すこれらの語は、「くずふ」「すぎふ」「よもぎふ」が、現代仮名遣いでも「くずう」「すぎう」「よもぎう」となり、「う」の音韻が残っていると感じられますので、長音ではなく「クズウ」「スギウ」「ヨモギウ」と書くのがよいと思います。

以上の語は、熟字全体で「きりゅう」「のう」「にゅう」などと読む語で、「桐」と「生」、「能」と「生」、「丹」と「生」などに分けにくい語であると思います。

それに比べ「未曾有」は漢文の「未だ曾て有らず（「ず」は「未」の再読文字）」で、1字1字意味があって発音する文字ですので、「ミゾウ」と書きます。

点字は表音文字ですので、現代の音韻に従った表記となります。現代の音韻は現代仮名遣いの付表を基にします。個人や地方によって発音も変わることがありますので、付表などを参考に現代仮名遣いに準じた書き方をします。

7. p28 4. 固有名詞の仮名遣い (2)

原本の地の文に

『橿日宮（福岡市東区香椎）で信託をうける。』に「かしひのみや」とルビあり。広辞苑第7版見出し語「香椎」の説明文中に【記紀伝承の橿日（かしい）宮のあとをいう。】

コトバンクの精選版 日本国語大辞典「香椎宮」の解説の末尾に【かしののみや】とありました。どのようにしたらよいでしょうか。

また、原本で日本書紀の神話の本文の抜粋箇所として、『私は国神で、名をアシナヅチ（脚摩乳）と申します。妻はテナヅチ（手摩乳）です。』とあります。

広辞苑の見出し語は「あしなづち」とあり、コトバンクの精選版 日本国語大辞典「奇稲田姫・櫛名田比売」の解説において、【出雲の国つ神、脚摩乳（あしなづち）、手摩乳（てなづち）の娘。】とありました。

この箇所はルビではないのですが、どうしたらよいでしょうか。

「てびき」 p28 (2) に「仮名で書かれた固有名詞は原文の仮名遣いに従って書く」とあります。

アシナヅチ（脚摩乳）、テナヅチ（手摩乳）は固有名詞だと思うのですが、原文に仮名で書かれている場合はどうすればいいのでしょうか。

【A】

ご質問の「かしひ」「あしなづち」は、歴史的仮名遣いになります。

広辞苑の「あしなづち」の見出しの下にカタカナで「・・ヅチ」とあります。香椎「かしい」の下にも「・・シヒ」とあります。広辞苑では、現代仮名遣いと歴史的仮名遣いが異なる場合は、このように見出しの下に異なる部分をカタカナで小さく記して

います。（「広辞苑」の凡例より）

ですから、点訳では、カシイノ■ミヤ、アシナズチ、テナズチと現代仮名遣いで点訳することになります。

p28 (2) の「仮名で書かれた固有名詞」は、その固有名詞に、仮名以外の表記がない場合を指します。ここの例の「みさを」「かほる」「ちづ子」などは仮名だけで表し、それに相当する漢字がありません。そのような場合に原文の仮名遣いに従って書きます。

「あしなずち」は「脚摩乳」の漢字表記がありますので、それを仮名で書いた場合は、漢字の表記をもとに書きます。

「和泉式部」が「いづみ しきぶ」、「大津皇子」を「おほつの みこ」と仮名で書いてあった場合も、一般書の点訳では「いずみ しきぶ」「おおつの みこ」と書きます。

8. p29 5. 特殊音点字を用いても書き表せない文字が使われている場合

サピエ登録の本です。アイヌ語の小さなカタカナで書かれている文字はどのように点訳をすればよいですか。読み手の方がアイヌ語の小文字がどのように書かれているかも知りたいとの要望があり、どのように点訳をすればよいか思案しています。今、考えているのは小文字を第2カギで括って点訳をする。それを点訳書凡例に書く。サピエの登録本でもアイヌ語の本が登録されています。どのように点訳されているかご指導ください。

【A】

アシクネプの「ク」と「プ」が小さく書いてあるような場合でしょうか。この小書きの部分を表す記号は、日本の点字表記法にはありませんので、表し方を工夫しなければならないことになります。

単語の中の一文字だけを第2カギで囲むのはマス数から見ても、とても読みにくいと思います。表記法にある小文字符（④⑤の点）も、特殊音と重なる部分があるので使用できません。考えられるのは、点訳書凡例で断った上で、⑤⑥の点を前置して表す方法で、これは他の仮名と重なりません。

ただ、ここまでして点訳する意味があるのかどうか、数ページをこの方法で点訳して読んでみていただいた方がよいと思います。

サピエに現在アップされているアイヌ語辞典は、

アリガトー■■（イヤイライケレ）■引iyayraykere引

のように、仮名とアルファベット表記が示してありますが、仮名の小書きは表示されていません。（イヤイライケレには小書きの部分はありませんが、外を見てもすべて小書きは示してありません）

このことも、依頼された方にお伝えして検討された方がよいと思います。

その2 数字

1 数の書き方

1. p31 1. 4桁までの数 【備考】

「千」の点訳で、数1000、センのほかに数1センとすることもありますか。

「千人」を「数1センニン」、「1千人」を「センニン」のように点訳するのは可ですか。校正で指摘してもよいか迷います。

【A】

「千人」は、数字で「数1000ニン」と書くのが原則通りの書き方になりますが、仮名で書いてもよく、「千」を数字で書くかカナで書くかは各施設・団体で方針を決めることが必要になります。

そのうえで、「千」を仮名で書く場合に、原文で「千人」「1000人」と書いてあれば、点字では「センニン」、「1千人」と書いてあれば「数1センニン」と書くのがよいと思います。

現代では、命数法、記数法の書き方がすでに曖昧になっていると思いますが、「千」は命数法の書き方ですので、基本的には書いてあるとおりに、「千人」とあれば「センニン」、「一千人」「壺千人」とあれば、「数1センニン」と書くことになります。点訳に際しては、この原則にしたがって、書くのが自然だと思いますので、校正では「原文通りがよい」と指摘してもよいのではないかと思います。

2. p31 2. 大きい数

新聞のコラムに 1クエタは10000000000000000000000000000000になる。

とありました。1行に収まらない時の書き方はどのようにすればよいのでしょうか。

今回は0を羅列しないで 1クエタワ■ウシロニ■0ガ■30コニ■ナル。としました。どのように書くのがよいのでしょうか。

【A】

いろいろな書き方が考えられますが、今回点訳された方法は原文がこのように書かれていると誤解される恐れがあります。

たとえば

1クエタワ■数1000②②②■ニ■ナル点挿数1の後ろに数0が数30コ点挿。のように書けば、原文の様子も分かります。

数式の場合は、②②②の前はマスあけしません。このQ&Aの第4章その7「p141

3. 数学記号」の箇所に関連した内容を取り上げています。該当のページでコントロール+Fによる検索窓を開き、「数式の省略を表す点線」で検索すると参照すべきQ&Aに飛びます。

3. p32 3. 小数 【処理】

プロ野球 選手の記録が書いてあります。

1665試合 1718安打 打率・298

打率の項目は

打率 298 ((2割 9分 8厘)) とするのでしょうか。

打率・298でよいのでしょうか

【A】

原文で、「打率 .298」と書いてありますので、2割9分8厘と書き直さなくてもよいと思います。ただ、「てびき」p32【処理】にありますように、整数部分を省略してある場合は、整数部分を補って書くことになりますので、
ダリツ■数0②298 となります。

②は小数点を表す②の点です。

4. p32 6. およその数

戦争んときも、十五～十六で少年飛行隊に入ろうとして、身体検査で落とされたってこともありました。

の例がありました、原本表記が

戦争んときも、十五、十六で少年飛行隊に入ろうとして、身体検査で落とされたってこともありました。

と、読点が使われている場合はどうなりますか。

【A】

読点が使われているときは、原文のとおり、数15、■数16と書いた方がよいと思います。「十五、六で」と書いてあれば、およその数と判断できますが、「十五、十六で」と書いてあったら、この場合は、15か16、いずれかの年齢を示していると思いますので原文通りがよいと思います。

2 数を含む言葉の書き方

1. p36 1. 数字を漢字音で発音する場合 (5)

「意気揚々と数字をカウントしている。『五、四、三、二、一、ゼロ～！』」

この「ゼロ～！」は、数的意味がある数字なので、「数0」と思うのですが、そのあとに波線があります。「数字の0」の後に長音は使えないので、長音を省略するか、「数0 (ゼロー！)」というのを補ったらどうかと考えていますがいかがでしょうか。

【A】

ゼローと延ばしますので、「てびき」p36 (5)に当てはまります。

数5、数4、数3、数2、数1、ゼロー！
と書き、数字を補わなくても十分だと思います。

2. p36 1. 数字を漢字音で発音する場合 (5)

原文は、「体操の教師がオイチニサンシイとどなる声にあわせて・・・」というものです。

「てびき」p36(5)で、漢字音でも読みが変化している場合は仮名で書く、また「てびき3版Q&A第2集」Q18では、特殊な読みでなければ数字で書くとなっており、このルールからすると、「オイチ■ニイ■数3■シイ」となると考えるのですが、「点訳フォーラム」の語例には、「いち・にい・さん・しい・ごお」が、「イチ■ニイ■サン■シイ■ゴオ」となっています。

この原文の場合、どのように点訳すればいいのでしょうか。

【A】

オイチ■ニイ■サン■シイ と書くのがよいと思います。

数字は仮名で書かれていても、数量や順序の意味がある場合は数字で書くのが原則（「てびき」p37 (7)）ですが、

漢字音であっても、読みが変化している場合は仮名で書きます（p36 (5)）。

それに加えて、「点訳フォーラム」では、数字がカナで書かれていて、「かけ声」を表す場合は、仮名で書くことを示しました。

これらのことから、ご質問の号令は仮名で書くのが適していると思います。

なお、「てびき3版Q&A第2集」のQ18の場合は「1、2、3、4」のうち「1」だけが、「いっち」と書かれていて、外の数字はすべて特殊な読みではありませんので、数字で書いた上で、「1」にカッコで（イッチ）と読みを付けることをお勧めしています。

「点訳フォーラム」の例は、数字がカナで書かれていて、「1～5」までのうち、2と4と5が特殊な読みになっていますので、数字と仮名が混ざってしまう不自然さを避けるために、カナで書くとしています。

このように、「てびき」の規則を踏まえた上で、数字と仮名の並び具合、かけ声かどうかなどを考慮して、カナで書くか数字で書くかを判断することになります。

3. p36 1. 数字を漢字音で発音する場合 (6)

「一番人気」について

イチバン■ニンキガ■アル■ウマ

数1バン■ニンキノ■ウマ

「もっとも」に置き換えられる副詞的用法の時は仮名ということですが、競馬関係の言葉かどうかは判断に関係ありますか。

この時代、鳥は一番人気のペットとなっていたのだ。

なかでもドッジボールが一番人気だった。

ドッジボールが一番人気だ。

これらはすべて「もっとも」に置き換えられると考え、仮名でしょうか。

それとも、「人気」のあとに「がある」とか「のある」まで言葉がないと「もっとも」に置き換えられないのでしょうか。

一番人気の犬種

一番人気の犬

これらは「数1バン■ニンキノ■ウマ」と文の成り立ちは同じに見えますが、仮名で点訳するとおかしいでしょうか。

【A】

「一番」は「もっとも」に置き換えられるときはカナになります。「もっとも」は副詞ですから副詞の働きをする場合にカナで書くという事はお考えの通りです。

語例集で「一番人気」のほか「一番勝負」「一番出汁」「一番弟子」「一番鶏」など数字で書く例を挙げています。これらは複合名詞として特定の意味で用いられる場合に数字で書きますが、「イチバン■弟子が多い親方」のように、文脈によっては、「もっとも」の意味でカナで書くことになります。

競馬の「一番人気」が最もイメージしやすいのですが、馬に限らず、「一番人気」「二番人気」という特定の意味で用いられる場合は数字で書くことになります。

そのような場合でなく、単に最も人気の犬のような場合は仮名でよいと思います。

4. p36 1. 数字を漢字音で発音する場合 (6)

「一発」について

「頭を一発はたく」は、イッパツ

「顎に一発くらう」は、1パツ

この書き方でよいでしょうか。

【A】

ご質問の場合は、ともに仮名で「イッパツ」になります。

「一発」は

①鉄砲の弾丸1個を用いた1回の発射

②思い切って何かをすること、ひとつ、一丁

この二つの意味があり、②の場合も1発、2発と数えられそうな場面もありますが、点訳フォーラムでは、①を数字、②を仮名としています。

ご質問の例は、弾丸の1個ではありませんので、仮名で書きます。

ただ、「頭を、一発、二発、三発とたたき続けた」のように、「1，2」と並ぶ場合は、数字になります。

「それも一理あるね」は「イチリ」と仮名ですが、「一理も二理もある」となると数字になります。

「彼に一目置いている」は仮名ですが、「彼に一目も二目も置いている」では数字になります。

このように、「一」だけでは数字の意味が薄い語でも、「1， 2」と言うことで強調している場合は数字になります。

5. p36 1. 数字を漢字音で発音する場合 (6)

「一件」を仮名で点訳するか数字を使うかの判断基準がわかりません。フォーラムの語例を見ますと点訳者の受け留め方で数字になりそうな気がします。

「ダニの一件を考えると～」

「今回の一件でアルビンモ父も、～」

このような時はどうなりますか。

【A】

「一件」には、1. 「1 件、2 件」と件数を数える、2. 「一つの事柄」を強調した言い方、3. 「あの件」「例の件」の意味の3つの使い方があります。

点訳フォーラムの語例では、

1. 議題は一件だけです ギダイワ■数1ケンダケデス

問題を一件ずつ処理する モンダイヲ■数1ケンズツ■ショリ■スル

2. 一件落着 数1ケン■ラクチャク

一件記録 数1ケン■キロク

3. あの一件は忘れられない アノ■イッケンワ■ワスレラレナイ

となります。

ご質問の、「ダニの一件を考えると～」 「今回の一件でアルビンモ父も、～」 はともに、「ダニの件を考えると～」 「今回の件で～」 の意味ですので、3. の例となり、カナで書きます。

ダニノ■イッケン

コンカイノ■イッケン

6. p36 1. 数字を漢字音で発音する場合 (6)

仏教用語の「六根清浄」を語例集では「ロツコン■ショージョー」とあります。

なぜ数字ではないのですか。「六境」、「六識」はどちらで表しますか。

【A】

「六根」は五感+第六巻で人間に備わった認識の根幹を表しているようですが、「六根清浄」で登山のかけ声となっていて、もとの数字の「6」としての意味が薄れていますので、仮名で書きます。

浄土宗の辞典によると、六根とは六つの認識器官（能力）のことで、眼根・耳根・鼻根・舌根・身根・意根の六つの根を指す。六境とは、六つの認識対象のことで、色境・声境・香境・味境・触境・法境の六つの境を指す。六識とは六つの認識のことで、眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識の六つの識を指す。
とあります。

「六根」「六境」「六識」を仏教用語として、上記のような意味で用いるのであれば、数字で、数6コン、数6キョー、数6シキと書きます。

7. p37 数字の漢字音・和語読み

日数の読み方

1. (原文) 大晦日まで…174日

「174日」を点訳すると「数174力」「数174ニチ」どちらにすればよいのか色々調べましたがよくわかりませんでした。『NHK日本語発音アクセント新辞典』の「数詞＋序数詞の発音とアクセント一覧表」の日数の所を見ますと、100はヒャク、70はナナジュウ、4はヨッカということで「数174力」になると解釈していいのでしょうか？また「あと24日」という場合は同じ辞典をみますとニジュウヨッカとニジュウヨンニチの両方の読み方が同等に書いてあります。「数24力」でも「数24ニチ」でもいいということでしょうか。「あと14日」は「ジュウヨッカ」とあり「ジュウヨンニチ」は許容とあります。「数14力」と読むのがいいということでしょうか。

2. (原文) 年間310日開館

これも「数3ビャク■トオカ」という書き方でよいでしょうか。

【A】

1. 点訳する際は、数174ニチ と書きます。

点字では、暦の上の、ツイタチ～トオカまでとハツカを和語読みで書き、そして、14日と24日を例外として、数14力、数24力としています。ですが、それ以外は、漢字音の書き方で書くのが原則となります。

2. ネンカン■数310ニチ■カイカン

と書きます。①の理由と同じで、数字の書き方の原則に従って書きます。数2ヒャク■トオカ、数2ヒャク■ハツカは、特別の意味のある複合語として、例外的な書き方になります。

8. p38 2. 数字を和語読みする場合 (1)

点字の解説書の六点漢字の説明に、「・・・7種類の漢字符を前置し、2マス目に音読み・・・」、漢点字の説明で「・・・1マス目がへんやかんむりなどを表し、2マス目はつくりを表すと言う構成で、ほとんどの漢字は2マスで書き表されています。」とあります。この場合 ひとマス ふたマスと仮名で書き表すべきものだと思います

が中には数符を使って1マス目2マス目と書くのもありではないかという意見もありました。この場合は、どのように書くべきでしょうか。

【A】

点字のマス数を表す場合は、「日本点字表記法」で「ヒトマス、フタマス、数3マス、数4マス…」と書いていますので、このように書くことになります。

点字の用語としては、「ヒトマスメ、フタマスメ」となります。

墨字も漢数字で書く方が一般的ですが、読みやすさへの配慮かどうか、アラビア数字で書かれている場合もあります。

それでも点訳に際しては、「ヒトマス、フタマス」とするのが、よいと思います。

9. p39 2. 数字を和語読みする場合 (2) [参考]

佐久間家は定府であったので、棟続きの長屋の一画ではあったが、平間に十間、二階に六間はある家をいただいていた。

この文中の、十間、六間、は部屋数のことのようにです。この読み方についてグループ内で検討しました。

「数10マ、数6マ」の意見がほとんどで、「トマ」「ムマ」の意見も出ましたが、それはないでしょうと終わってしまいました。帰宅してから調べたところ、和語の助数詞につく数は和語読みするとあり、「間(ま)」につく数の発音は和語読みとでていました。また、ふりがな文庫で調べたところ、「イツマ」「ムマ」「ナナマ」の例が見つかりました。また、「棟」「部屋」に続く数の読みは「NHK言葉のハンドブック」によると、6の場合、「ロクヘヤ」「ロクムネ」、10の場合、「ト(ジュ)ムネ」「トヘヤ」でした。それ等を参考に、「六間」「十間」を「ムマ」「トマ」と書いてもよいでしょうか。

【A】

トマ、ムマ、トムネなどとも読みますが、点字では数字の表意性を考えて、数10マ、数6マ、数10ムネと書くことをお勧めします。

ヒラマニ■トマ、■数2カイニ■ムマ、と書かれるより、

ヒラマニ■数10マ、■数2カイニ■数6マ

とある方が、内容がすんなりと入ってくると思います。

十棟も「数10ムネ」と書いてある方がよいと思います。

「てびき」p39 [参考]にあるように、3から数字で書くのが分かりやすいと思います。

調査なさった結果「和語の助数詞につく数は和語読みする」とあったとのことですが、「現代語では多くの場合和語の数詞が使えるのは1からせいぜい4までで、それ以上は漢語の助数詞を使うか、または漢語の数詞を和語の助数詞に組み合わせる。」

という説明も見られます。

また、NHK放送文化研究所の資料では、《(2016年) 5月に発行した『NHK日本語発音アクセント新辞典』の付録にある助数詞一覧表には、和語系数詞で数える助数詞を44項目掲載した。このうち「1から10までの数」のすべてで和語系の読みのものは、「日」(ついたち、ふつか、みっか…)しかない。多くは、「1、2」までは和語で数えるが、「3」以降は漢語系の数詞に取って代わられるパターンだ。これまでのアクセント辞典で「1、2、3」については和語系の読みをとってきた「組、桁、皿、束、玉、とおり」についても、今回「3」については漢語系の「さん」の読みを優先型として示した。旧辞典ではかろうじて残っていた「4」以降の和語読みは、使用頻度が低いことから、一部を残して削除した(「4玉(よたま)」「5株(いつかぶ)」「6切れ(むきれ)」など)。》とありますので、参考までご紹介します。

10. p39 3. 数字を外国語読みする場合

原本「ベストテン」と仮名で書かれている場合、「テン」はカナで書かなければならないのでしょうか。「ベスト■10」と数符を使って点訳すると間違いでしょうか。1タイトル中で統一されていればよいのでしょうか。

【A】

原本に「ベストテン」と仮名で書いてあれば、外来語扱いになり、仮名で書くのが原則になります。

何か特別の理由があれば別ですが、原本通りに書くのがよいと思います。

もし、点訳で「ベスト■数10」とされている場合、校正では原則通り原文表記に従って「ベストテン」の表記に直してよい例に当たると思います。「てびき」p39の用例は、墨字が「ベスト10」の場合であることを確認いただくことになると思います。

11. p41 「コラム7」

「一〇〇〇」とか「一一〇〇」などの軍隊の時間の読み方はどう点訳すればよいでしょうか。「ヒトマルマルマル」、「ヒトヒトマルマル」と読むのはわかるのですが、一語ずつ区切るか続けるか、本来の時間を書くべきか、書くとしたらどちらを先に書くか悩んでいます。

【A】

「ヒトマルマルマル」、「ヒトヒトマルマル」は数字ひとつずつ区切って書くのがよいと思います。

「ヒト■マル■マル■マル」、「ヒト■ヒト■マル■マル」となります。

どのように点訳するかは、原文の書き方や前後の文脈で異なってくると思いますが、

「一〇〇〇」「一一〇〇」と書いてあって、前後の内容から、軍隊の時刻の読みであることが分かるのであれば、そのまま、「ヒト■マル■マル■マル」、「ヒト■ヒト■マル■マル」とだけ書いてよいと思います。

12. p41 「コラム7」

仮名で書かれた数字の点訳について質問します。

競りの場面で、「イチヨン、イチゴー、イチゴー、イチロク、1600円」という部分の点訳ですが、「数1ヨン、イチゴー、イチゴー、数1数6」でよいでしょうか。

イチヨンは漢字音と和語読みなので数字と仮名、イチゴーは「5」が「ゴー」と発音されているので全て仮名、イチロクは数字で書くと判断しました。

【A】

この場合は、1 4 (0 0)、1 5 (0 0)、1 5 (0 0)、1 6 (0 0)、1 6 0 0 という意味ですので、ジュウヨンであれば、数1 4になりますが、符牒的な読みですので、

「イチヨン、イチゴー、イチロク」と書いてよいと思います。

13. p41 5. 電話番号など

列車の車両番号の書き方です。

オイテ27000形 数2マン■数7 0 0 0 ガタ

ナロ20850形 数2マン■8 5 0 ガタ

8620形58654号機 数8 6 2 0 ガタ■数5マン■数8 6 5 4 ゴーキ

と書くのでしょうか、それとも電話番号と同様に、27000形・8620形58654号機と数字の連続で書くのでしょうか。

【A】

オイテ■数2 7 0 0 0 ケイ

ナロ■数2 0 8 5 0 ケイ

数8 6 2 0 ケイ■数5 8 6 5 4 ゴーキ

と書くのがよいと思います。

数字の桁それぞれに、意味があり、二、ナナ、ゼロ、ゼロのようにも呼ぶようですので、電話番号や学生番号などと同じ書き方がよいと思います。

なお、「系」と「形」も違いがあるようですが、共に「ケイ」と呼ぶようです。

14. p41 5. 電話番号など

車のナンバープレートの書き方はどうなりますか。

「・・・1」は「メメメ1」と書いてもいいでしょうか。

【A】

車のナンバープレートは、3桁以下の時は「・」の記号で空白になる桁が埋められ、4桁の時は2桁目と3桁目の間に「-（ハイフン）」が付加されます。

「・」が付くときには、ハイフンは付かないので、「・・・1」「・・・12」

「・123」となります。

車のナンバーとしては「数1」「数12」のように書きます。

「・・・」の部分に何か意味があり、説明が必要な場合は、初出の時に、点訳挿入符で「上位3桁が空白であることを示す中黒のような点」などと補うとよいと思います。

その3 アルファベット

2 語や文を書き表す場合

1. p47 「コラム9」

猛獣の雄たけびなどがアルファベットで書かれています。

例としては

「K I A A A A A・・・っ！」

「H O O O O O O！」

このような場合は、外字符 2 重大文字のあと、アルファベットを続けて書くという事でよいでしょうか。

【A】

叫び声ですので、「キアアアアア」「ホオオオ」という発音になると思います。ローマ字で書いたときと同じように、外国語引用符で囲みます。

「K I A A A A A・・・っ！」の場合、点線の後ろの促音符は、「てびき」p114の1行目の例を参考にして省略します。また、この場合の点線は余韻や無音を表す点線ではなく、Aがさらに続くという意味になります。点線の前で外国語引用符を閉じてしまうと、K I A A A Aと感嘆符が形の上でも、意味の上でも分断されてしまいますし、Aの数を増やさなくても十分に多いので、「引大大K I A A A A A！引」が、最も原本の内容に合った、自然な書き方ではないかと思います。

「引大大K I A A A A A！引」と書きます。

下の例も「引H O O O O O O！引」となります。